

研究・調査報告書

報告書番号	担当
485	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名（原題／訳）	
<p>Increased levels of adiponectin and resistin in alcohol dependence-possible link to craving. アルコール依存症におけるアディポネクチンとレジスチンレベルの上昇—欲求との連関の可能性</p>	
執筆者	
Hillemacher T, Weinland C, Heberlein A, Groschl M, Schanze A, Frieling H, Wilhelm J, Kornhuber J, Bleich S.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Drug Alcohol Depend. 99(1-3): 333-337 (2009)	
キーワード	
アルコール依存症、欲求、アディポネクチン、レジスチン	
要 旨	
<p>最近の研究結果は、レプチンやグレリンのような食欲調節ペプチドがアルコール依存症において、そして特にアルコールに対する欲求の神経生物学において果たしている役割について示唆している。本研究の目的は、アディポサイトカインであるアディポネクチンとレジスチンのアルコール依存症患者での変化について検討することである。</p> <p>アルコール解毒処置のため入院した 88 名の患者について禁酒処置の 1 週間後に、89 名の健常対象者を比較対照として分析した。アディポネクチンとレジスチンの血清レベルは市販の ELISA キットを用いて測定した。アルコール欲求性の程度は Obsessive Compulsive Drinking Scale (OCDS、強迫性飲酒スケール) によって評価した。</p> <p>アルコール依存症患者のアディポネクチンとレジスチンの血清レベルは、入院および禁酒処置 1 週間後の両時点で対照者と比較して有意に上昇した。禁酒期間中、アディポネクチンは有意に低下した。一方、血清レジスチンレベルはわずかな上昇を示した。多変量解析の結果、男性患者で、アルコール欲求程度と血清アディポネクチンレベルとの有意な相関が認められたが、レジスチンレベルとの関連は認められなかった。女性患者での結果は有意ではなかった。</p> <p>我々の知見は、アディポサイトカインのアディポネクチンとレジスチンのアルコール離脱期での変化を示した初めてのものである。さらに、アディポネクチンは視床下部回路に対する効果を介してアルコール欲求性に神経生物学的な関与をしているものと考えられる。</p>	